

「方法」講義立会記

金塚美穂

本稿は今回の講義内容である「方法」についての立会人の考察である。

現代は「なんでもあり」的風潮の停滞期であり、「方法」はそんな時代を打破するための一種の方法であると立会人は考える。「方法」は作品それ自体では決して面白味のあるものとは言えないが、この時代下においては必要悪なのである。本来芸術というものは被発信側の想像力を掻き立てるようなものであるべきだ。しかし、現代のような無秩序ともいえる自己満足的な状態からはそのような作品は生まれにくい。そこで「方法」によって、この時代の芸術を本来あるべき状態に戻すことが可能なのではないか。「方法」は現代において不可避な存在なのだ。